

宮工親文

二年連続全国総合文化祭出場！！

十月十三日に美里町で第五回新聞コンクールが行われた。私達は優秀賞を受賞することができ、来年度のさが総合文化祭に出場することが決まった。

昨年のみやぎ総文祭では、運営に関わり、大変ではあったが他県の生徒さんと交流できたことが楽しかったので、次は参加者になりたいと話していたところ、今年の信州総文祭の出場が決まった。代表として部長・副部長の二名が参加し、全国のレベルの高さを体感できたことなど、とても貴重な体験ができたと話していた。

総文祭では、班毎に様々なコースに分かれて、取材活動を行い、「交流新聞」を作る。初めて会った他県

の生徒さんたちと延べ一日かけて作るのだが、制限時間が課せられているので、徹夜をするグループもあったそうだ。交流会や各県、各学校の話を伺うことができるといふ楽しみもある。

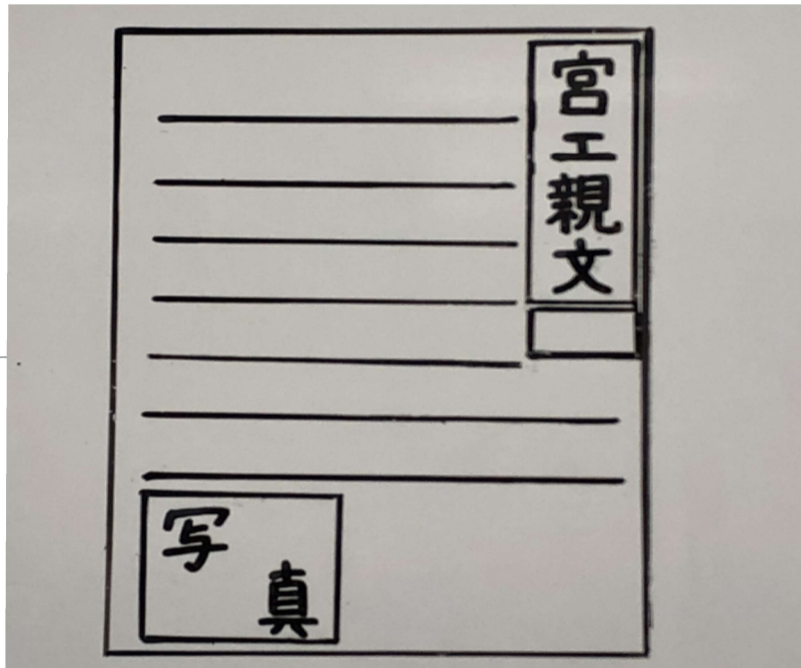
来年のさが総文でも、佐賀県の多くの魅力に触れ、今年同様、他県の学生と協力し最高の新聞を作りたいと思う。

今年は新入部員が二人だったので、来年は一年生をたくさん勧誘し、さが総文に参加して、多くのことを学んでほしい。活気あふれる楽しい部活になればいいと思う。

(インテリア科二年
安藤なつみ・黒澤麗奈・遠藤菜摘)



やってはいけないレイアウト



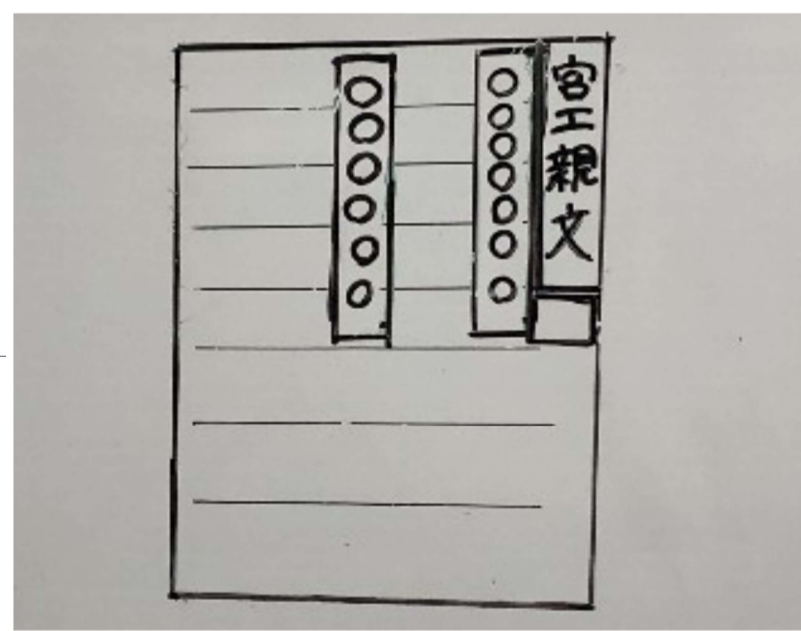
▲『しりもち』一番下に写真を配置する事

研修で学んだこと

例えば、レイアウト。新聞記事の一番下に写真を置くことは、『しりもち』といいますが、それは避けたいことだ。他には、読者が読みやすいように記事の配置をすることが大切だ。『X型』や『Y型』などがある。そして、二段に渡って見出しを作ることは避けたい。そうだが、最近は一段の文字数が少なくなっている。そのため、今はあまり気にしてはいない。見出しは、約十文字くらいの文字数で内容が伝わるよう工夫しなければならない。

私自身それを初めて知ったので、これからの新聞作成で気をつけたいと思う。

(インテリア科二年
安藤なつみ・黒澤麗奈・遠藤菜摘)



▲『横並び』同じ大きさの見出しを同じ段に並べる事



▲魚市場で 白井亮さんからお話を伺う

十月六日の新聞部研修会で訪れた気仙沼は、海の町。東日本大震災では津波の被害を受けた。研修会では、当時の様子を知る、かもめ通り商店街と魚市場で取材をさせていただいた。

魚市場では、気仙沼観光コンベンション協会の白井亮さんに当時の様子を伺った。震災前は、カツオ生鮮が日本一という事に加え、サンマやマンボウもよく捕

魚市場へ取材

れたそうだ。震災の津波は二十メートルを超える高さで、被害が大きく、営業を再開するのは絶望的だと思っていたそうだ。しかし、町の復興のシンボルにしようと地域全体が協力して見事三ヶ月で営業を再開した。

他県の船が率先して気仙沼に水揚げをしてくれて、震災前と変わることのない魚の量を出荷することが出来たそうだ。その結果、二〇一一年はカツオの生鮮、メカジキ・サメの水揚げ量も日本一。この結果は、今年で二十一年連続だそうだ。

これからも気仙沼魚市場が復興のシンボルであってほしい。

(インテリア科二年
奥山ちさと)

★週を跨いで行った二日間の研修。そこでは学んだことがたくさんあった。例えば新聞にも書いたように、写真を新聞の一番下に貼る『しりもち』は、この研修で初めて知った。(菜)

★研修では、河北新報の方からアドバイスを受けた。それを今後の活動に活かしていければ、よりよい新聞を作成できると思う。(麗)

★研修では、皆で取材をし、交流新聞を作ることが楽しかった。また、今回の研修で学んだ事を今後の新聞作りに活かしていきたいと思った。(な)